【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年4月14日(2016.4.14)

【公開番号】特開2015-226810(P2015-226810A)
【公開日】平成27年12月17日(2015.12.17)
【年通号数】公開・登録公報2015-079
【出願番号】特願2015-143634(P2015-143634)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　13/02　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　13/02　　３１０Ｒ
Ａ６１Ｆ　13/02　　３１０Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成28年2月24日(2016.2.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
皮膚表面上の治癒創傷における瘢痕形成を阻止するための装置であって、
前記装置は、
前記創傷を係合するための比較的に非伸張性の底面と、作動された場合に前記底面から上方に離れる比較的に伸張性の上面とを有する拡張可能構造であって、前記上面は、前記拡張可能構造が拡張されるときに、前記底面よりも伸長し、前記底面は、平坦であり、前記拡張可能構造が拡張されるときに、平坦なままである、拡張可能構造と、
前記創傷の両側の皮膚に接着するように適合されている２つの側方領域と、前記創傷を覆って留置された場合に前記拡張可能構造を覆うように適合されている中心区画とを有する裏当てと
を備え、前記拡張可能構造の拡張は、前記平坦な底面が前記創傷および隣接する組織に対して下方圧力を適用することを生じ、かつ、同時に、前記上面が隆起して、前記裏当ての側方領域を内向きに牽引することにより、前記創傷に隣接する組織を側方に圧縮することを生じる、装置。
【請求項２】
前記拡張可能構造は、膨張可能である、請求項１に記載の装置。
【請求項３】
前記拡張可能構造は、伸縮に抵抗する底面と弾性の上面とを有することによって、前記拡張可能構造が膨張された場合、前記上面は、変形して、前記底面から離れる一方、前記底面は、寸法的に安定したままである、請求項２に記載の装置。
【請求項４】
前記拡張可能構造は、拡張された場合、Ｄ形状外形を有する、請求項１に記載の装置。
【請求項５】
前記裏当ての少なくとも前記側方領域は、非伸張性である、請求項１に記載の装置。
【請求項６】
前記裏当て全体が非伸張性である、請求項１に記載の装置。
【請求項７】
前記側方領域の各々は、前記皮膚に接着する接着剤表面を有する、請求項１に記載の装

置。
【請求項８】
前記拡張可能構造は、前記治癒創傷の長さに沿って継合されている複数の区分を備え、前記区分は、互に対して変位可能であることにより、前記構造が長い創傷に一致することを可能にする、請求項１に記載の装置。
【請求項９】
各区分は、別個の裏当てによって、前記皮膚上に保持される、請求項８に記載の装置。
【請求項１０】
前記拡張可能構造の前記底面は、薬物によってコーティングされている、請求項１に記載の装置。
【請求項１１】
前記裏当ての少なくとも一部分は、弾性である、請求項１に記載の装置。
【請求項１２】
前記裏当て全体が弾性である、請求項１１に記載の装置。
【請求項１３】
前記拡張可能構造は、力学的に拡張可能であるように構成されている、請求項１に記載の装置。
【請求項１４】
前記裏当ては、前記治癒創傷に軸方向に隣接している組織を覆われないままにする、請求項１に記載の装置。